

# ANNUAL REPORT 2024



GLOBAL  
CENTER

# ご挨拶

## 「学ぶことは、果実より花である」

2024年から始まった『Learning Innovation Program (LIP)』をリードしてくれている、特別研究員の高津くんの noteからこの言葉を借りています。これは、学びの本質を「成果や結果（果実）」ではなく「その過程で咲くもの（花）」に見出す姿勢を表しています。もともとはフランスの思想家アンドレ・シーグフリードの言葉であり、それを政治思想家・丸山眞男が引用したことで知られています。

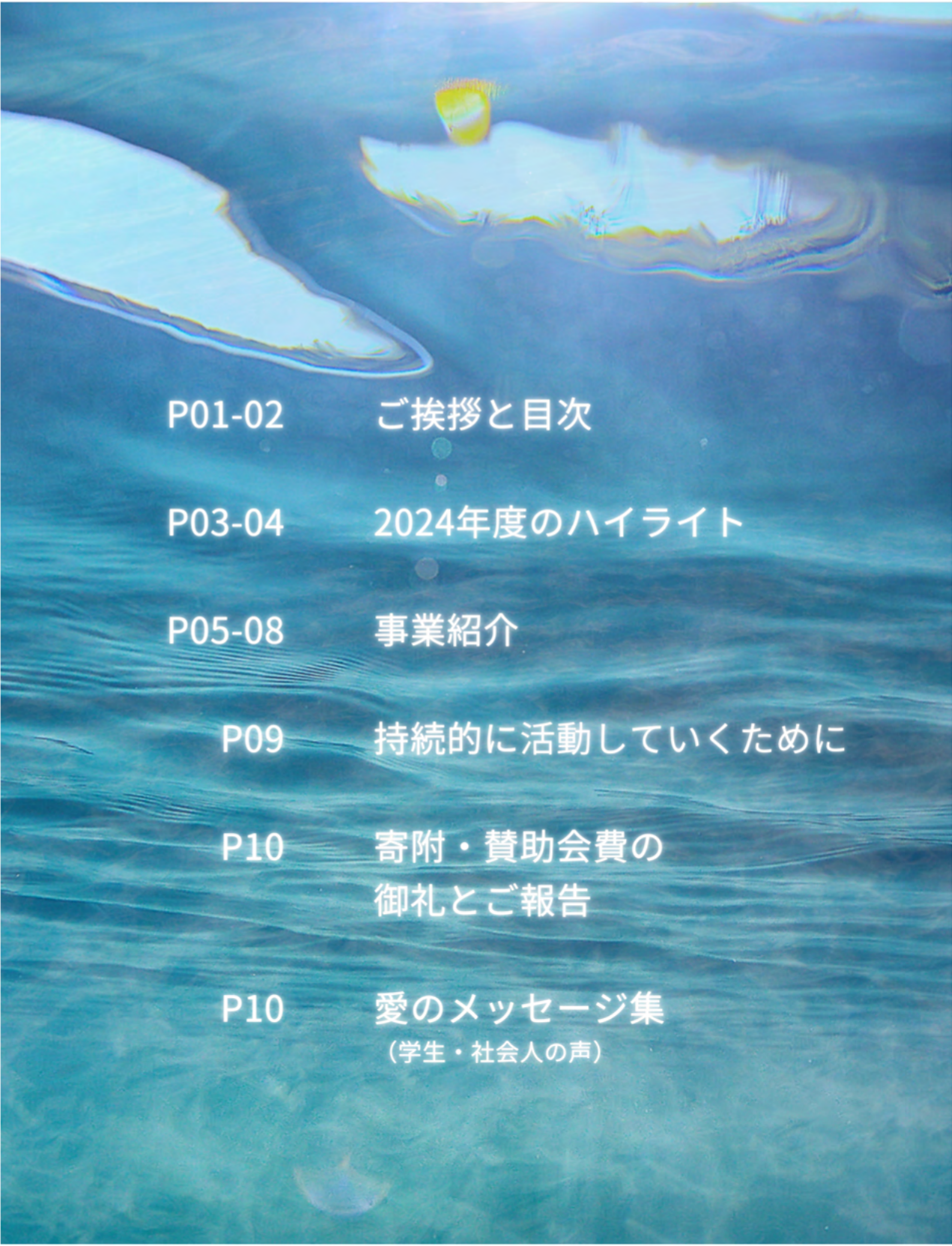
私たちグローバルセンターがつくり続けている学びの場や機会も、まさにこの「花」なのだと考えています。プロジェクトの成果やスキルの獲得といった目に見えるゴールだけでなく、その過程で生まれる対話、違和感、つながり、揺らぎといったものこそが、私たちの学びの核にあります。数値的な成果や効用だけでは測れない、しかし確かに人生や社会を動かす力となる——そんな「花」を、私たちはこれからも若者に届けていきます。

それでは、2024年度、設立12年目の活動の記録をご覧ください。いつもありがとうございます。

認定NPO法人グローバル人材開発センター代表理事 行元 沙弥



# INDEX

- 
- P01-02 ご挨拶と目次
- P03-04 2024年度のハイライト
- P05-08 事業紹介
- P09 持続的に活動していくために
- P10 寄附・賛助会費の  
御礼とご報告
- P10 愛のメッセージ集  
(学生・社会人の声)



## INITIATIVE

## Learning Innovation Program (LIP) 始動

公益財団法人トヨタ財団のイニシアティブプログラムに当センターの提案が助成事業として採択され、2024年度に「Learning Innovation Program (通称LIP)」を新たに始動することとなりました。

本事業では、学校に限らず地域全体にひらかれた学びのあり方＝「教育の社会化」をテーマに、学びを自ら生み出す人材＝ラーニングイノベーターの育成と、実践を支えるネットワークづくりに取り組みます。同財団の国際助成でお世話になったプログラムオフィサーの一言が申請の後押しとなり、新たな機会の獲得へと繋がりました。プログラムの詳細と初年度の実施内容については、事業報告ページ (P06) でご紹介しています。



高校生・大学生・社会人が一緒に学ぶプログラムの風景



Students Labでのワークショップ開催の様子

## TEAM

## ダイナミックに動くための組織の土台づくり

人を育てる事業を展開していくうえで、人が組織の基盤であり、資産でもあります。今年度は、組織基盤と財政基盤の強化を目指し、事務局内の新たな体制構築と業務改善に取り組みました。これまでの取り組みを継続的な事業収入やご寄附に繋げ、基盤を確実なものにしていくために、継続して改革を進めてまいります。

また、現在活動しているインターンシップ生の多くは当センターで3年以上活動を継続しており、若者のリアルな声を反映した事業運営に協力してくれています。スタッフ10名の少数組織、かつ未来を創造して行く当センターにとって強力な仲間です。今年度はこのチームで、年間3,500名以上、学生と社会との接点を作ることができました。今後も、さらなる機会提供の拡大に向けて、引き続き組織改善や活動の可視化を行ってまいります。

## BASE

## QUESTIONを育む、共創と越境の一年

今年度は、「QUESTIONを共に創るコアパートナー」としての立ち位置を再定義し、より深く協働にコミットする一年となりました。QUESTION全館の運営に関わるメンバーが一同に会し、価値やミッションを見つめ直す「Q館日」を京信・ツナグムのメンバーとともに設計し、全館あげてのワークショップを4回実施しました。その対話をもとに、現在、ビジョンブックを作成中です。そして、新たな共同プロジェクトとして、小・中・高・大の「はみ出し系」教員らがゆるやかにつながる「Qスクール」を立ち上げ、行政や企業とも連携しながら全5回の座談会を実施しました。

また、学生×社会人の定期交流会「ジェネコネ」は人気を博し地域展開へと発展し、さらにQUESTIONの内覧をきっかけに大手企業との有償プロジェクトも始動しました。コロナ禍を経て「大学の外にも出たい」と思う学生が増える揺り戻しの動きが見られ、Students Labの利用者数が再び増加傾向に。5周年を迎える2025年は、QUESTIONという場を共に育ててきたチームとしての真価を発揮し、より多くのつながりと挑戦のきっかけを生み出していきます。



QUESTION運営メンバー「Q館日」後の懇親会の様子



## 京都市外への広がり（抜粋）

### ■ 学生プロジェクト／企業訪問

京都府 福知山市  
大阪府 大阪市（万博パビリオン建設地）  
滋賀県 栗東市  
三重県 尾鷲市

### ■ アクティブラーニング

高校：京都府 京丹後市、大阪府 高槻市  
社会人：北海道、セネガル他（PBL演習）

### ■ 講師・講演者登壇

滋賀県 大津市  
兵庫県 神戸市  
埼玉県 新座市  
山形県 酒田市  
台湾 新北市



福知山市内で一緒に活動していただいた皆様と



GLOBAL & LOCAL

## OUTREACH

### 2024年度の活動の広がり

高校生から社会人までが同じ受講者の立場で学び合う長期プログラムを新たに開始しました。また、活動の中心である京都市内を出て、15都市以上の地域で「グローバル人材」の育成につながる場づくりを行いました。学生が知らない地域や業界に飛び込んだり、スタッフが訪問してお話させていただいたり、また、オンラインを通じて、更に遠い地域で学びを求める方々にも機会を提供することができました。分野、世代、価値観…様々なバックグラウンドを持つ人同士の交流による「グローバル人材」の育成のあり方を模索し、引き続き、各地での種まきを続けていきます。

## STUDENTS

### 数字で見る学生との関わり

当センターは「学生・社会人の両方が参加し学び合う」場づくりを重視しています。忙しくても参加しやすい短期間のプログラムから長期プログラムまで、様々な入口から実際に足を運んでくれた学生は年間2,700名以上、社会人は850名以上となり、交流会、ワークショップ、課題解決プロジェクトなどで相互交流の機会を作りました。

取り組みの面で支えてくださった企業や団体は実に60を越え、個人単位でのご協力や賛助会員・寄附会員法人（裏表紙参照）も含めれば更に多くの方に支えていただいています。学生の居場所である「Students Lab」の利用者は昨年より増加して年間1,318名。若者への機会提供を中心にしながら、社会人にとっても学びがあり、相互に触発し合いながら社会をつくる仕掛けづくりを目指しますので、学生も社会人もぜひご参加ください。

	学生	社会人
2024年度参加者数	2,704名	853名
↑気軽に参加		
Students Lab 利用者数	1,318名	-
コーディネイト・登壇 授業、講演	793名	386名
交流会型 イベント	153名	216名
ワークショップ	131名	55名
↓じっくり参加		
企業研修	20名	133名
学生×企業 PBLなど	173名	40名
長期プログラム 履修者	36名	23名



上：訪問先の企業で、実際に道具に触れて作業を体験  
下：Students Labで学生とスタッフが交流する日常

### 活動に参加した学生の変化

活動の振り返りや事後アンケートからは、こうした当センターの多様な活動に参加した学生たちが、自らの生き方や社会とのつながりを見つめ直す大きなきっかけを得ていることがうかがえました。

特にプロジェクト（PBL）では、実際に地域に足を運び、体を動かし、現地の人々と対話するプロセスにより、机上の学びでは得られない“実感のある学び”がもたらされています（P05）。連携企業である宮大工の技や精神性に触れた学生は、丁寧な仕事や長い時間をかけて何かを継承していく姿勢に感銘を受け、「何を未来に残すか」という視点を自然と自分の中に取り込んでいきました。都市部出身の学生が、初めて訪問する地域の温かさや地域の方が抱く地元への誇りを知る機会となったことも印象的でした。また、参加者からは「自分の中の偏見に気づけた」「多様な視点に刺激を受けた」という声も多く聞かれました。フラットな雰囲気の中で参加者同士が距離感を近づけながら対話する機会もあり、この経験は自分自身や相手の感情を丁寧に受け止め、思考を深める力へとつながっています。

こうした経験のひとつひとつが、将来や日常を見つめ直す小さな問いとなり、学生たちの中で確かな“変化の芽”として育ち始めています。



# 学生の活動

## 先の見えない時代を生き抜く 若者と地域の連携をコーディネート

### 地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業 (京都市受託事業)

学生プロジェクトを軸とした類似事業の委託は今年度で11年目を迎えました。地域と学生を繋ぐ架け橋として成長を続け、これまでに延べ685名の学生が参加し、111件以上のプロジェクトが生まれました。2024年度は78名が10プロジェクトに挑戦しました。学生たちは、課題解決型のプログラムで企業が持つ課題に対して解決に向けた話し合いを重ねたり企業訪問を通じて、京都のまちや地域企業の「生きた姿」に触れ、自ら考え、行動する力を育んできました。中には、複数回の参加を重ねることで、地域課題を「自分ごと」として捉え、継続的に地域に関わるようになる学生もいます。この事業は、学生だけでなく企業にも大きな変化をもたらしています。「若者が来てくれない」と受け身だった企業の方々から、「若者が働きたいと思える会社にしていかなくては」と、自らの意識を見直す前向きな声が寄せられるようになりました。行政が掲げる「学生がまちを理解し、担い手を育てる」という目的を超え、学生と企業人の双方に意識変革と行動変容を促す、かけがえのない価値を生み出しています。



年次報告書  
(連携先一覧、  
活動詳細等)



### 尾鷲×GLOCAL プロジェクト

三重県の尾鷲市地域経済活性化協議会との連携により、京都の大学生が尾鷲市内の事業者を取材し、地域の魅力を発信する記事作成に取り組みました。年度末には地域住民を対象とした報告会とワークショップを開催し、学生と地域の方々で直接対話する場を設けました。

京都の学生にとって、尾鷲への訪問は、学校では得られない地域ならではの一次情報に触れる貴重な機会となりました。人の温かさや豊かな自然、そして尾鷲の企業が担う製品やサービス、地域に根ざした社会貢献の役割について理解を深めることができました。また、大学がない尾鷲市では、行政、金融機関、地元事業者など地域の関係者の皆様にとっても、大学生の新鮮な視点や価値観に触れる、貴重な機会となったと高く評価されています。このプロジェクトで得られた知見と成果は、今後、他地域での取り組みにも活かしていく方針です。



尾鷲企業  
取材記事  
(note記事)





## 誰もが新たな発見と成長を続けられる 世代や所属を超えた、学びの場の提供

### Learning Innovation Program

今年度、新たにトヨタ財団のイニシアチブプログラム助成事業として「Learning Innovation Program (LIP)」を立ち上げました。これは、当センターが掲げる「教育の社会化」の核心を担う、世代や所属を超えて「学びを社会にひらく人」を育てる新たな挑戦です。高校生8名、大学生6名、社会人13名の、多様な背景を持つ計27名が、世代を超えて約半年間にわたり「学びの場のデザイン」とその実践に取り組みました。事後アンケートでは、参加者の約8割が「多様な属性が集まることで学びの質が高まった」と回答し、約75%が「学んだことをすでに実践した、または実践予定がある」と答えるなど、具体的な行動変容に繋がる成果が見られました。来年度も継続実施を予定しており、第1期生と第2期生の交流を通じて、ラーニングイノベーター同士の挑戦を支え合う、強固なネットワークが広がるよう設計を進めてまいります。



### 京都試作ネット×GLOCAL

一般社団法人京都試作ネットのビジョン策定に向けて、未来を担う若者の価値観や考え方を取り入れながら、京都試作ネットの皆様と学生が共に学び合うプログラムを実施しました。当センターでの活動で力を付けた学生や、自身でものづくりを探求する学生など、個性豊かな大学生・大学院生5名が参加し、「試作の可能性」と「ものづくりの未来」をテーマに、全4回開催しました。

学生たちは最終的に、次代を担う若者が考える「未来のものづくりガイドライン」を提案し、この提案内容は、実際にビジョン策定において参考資料として活用され、若者の声が京都企業の経営方針に直接活かされるという、素晴らしい成果に繋がりました。



未来のものづくり  
ガイドライン



#### 未来の「ものづくりガイドライン」

<p><b>作り手</b> 1. ものづくりは愛 : <b>Manufacturing is love</b></p> <p>思いやりがこめられた製品は、そして「愛されたい」という思いがこめられた製品は、愛されるべきであり、愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>	<p><b>作り手</b> 2. ものづくりの民主化 : <b>Do it Ourselves</b></p> <p>思いやりがこめられた製品は、そして「愛されたい」という思いがこめられた製品は、愛されるべきであり、愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>
<p><b>もの</b> 3. モノとの出会いは一生もの : <b>Objects stay with you forever</b></p> <p>愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>	<p><b>もの</b> 4. モノが支配してしまう危険性 : <b>The dark side of materialism</b></p> <p>愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>
<p><b>使い手</b> 5. モノに人生を支配されない : <b>Don't let things control you</b></p> <p>愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>	<p><b>使い手</b> 6. ものづくりと使い手の適合性 : <b>MCF / Monozukuri Customer Fit</b></p> <p>愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>
<p><b>作り手</b> 7. なじむ余地が地域性を耕す : <b>Welcoming flexibility</b></p> <p>愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>	<p><b>自然</b> 8. 人、ヒト、ひととのバランス : <b>The mind of SAN HITO YOSHI</b></p> <p>愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>
<p><b>試作</b> 9. 「XS, S, M, L, XL, +」と、ものづくりのサイズを設定する : <b>Determine the sizes for Monozukuri as "XS, S, M, L, XL, +".</b></p> <p>愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。愛されるべき製品は、愛されるべき製品である。</p>	



## 世代、肩書、文化のMIX！

グローバルだからこそできる、人として繋がる場づくり

### 学生×企業人 交流会

#### 『未来のはたらくー働くってどういうこと？』

2024年11月20日、QUESTION7Fクリエイティブコモンズにて、学生36名、企業人36名の計72名が参加する賑やかな交流会を開催しました。事業規模や業種、働き方の異なるゲストスピーカー2名（堀場 弾 氏：株式会社堀場エステック代表取締役社長、小柴 美保 氏：MIRAI-INSTITUTE株式会社代表取締役）をお招きし、「未来のはたらく」をテーマにゲストトークで話題を広げ、ゲストトークの内容をもとに参加者同士でのワークショップを行いました。ワークショップでは参加者がグループに分かれて学生と社会人それぞれの視点から対話を深めました。特に「未来に向けて、今、手放すもの／残したいことは？」というテーマでは、参加者が自身の働き方やその想いに向き合い、深く考える時間となりました。例えば、「手放したいもの：肩書き、先入観、不安感」「残したいもの：自分の軸、メリハリ、人生観」といった、本質的な気づきが共有されました。



学生×企業人  
交流会  
(note記事)



### 第12回グローバル人材フォーラム

2025年2月21日、佛教大学紫野キャンパスを貸し切り、『第12回グローバル人材フォーラム』を開催しました。京都産業大学、京都橘大学、京都文教大学、佛教大学、龍谷大学、京都光華女子大学の6大学の学生によるPBL（課題解決型学習）の成果報告会として、12チームが参加。学生82名、企業人46名の計128名が集い、分科会形式で活発な発表と議論が交わされました。

この6大学では、職能資格「GPM（グローバルプロジェクトマネジャー）」プログラムをそれぞれの特色ある内容で提供しており、本フォーラムは、資格取得を目指す学生同士の交流の場も兼ねています。2部制のプログラムで実施し、第1部では成果報告、第2部では「成果報告を終えた感想」と「PBLでの学びを地域や社会に活かすには？」をテーマに対話型ワークショップを実施。現役の学生と社会人が熱い議論を交わしながら交流を深め、学びを地域や社会に繋げるための具体的な視点を獲得する機会となりました。



第12回グロ  
ーカル人材  
フォーラム  
(note記事)





## 外国人起業家支援事業（京都府受託事業）

昨年に引き続き、京都府からの受託事業である「長期滞在型外国人起業家等誘致プログラム」の運営を担いました。約90日間にわたり、入国・移住準備から起業支援、地域コミュニティとの接続まで、外国人起業家の皆様を包括的にサポート。参加者5名に対し、スタートアップビザや就労ビザの申請支援、京都支社設立に向けた伴走、ビジネスマッチングの実現など、具体的な成果を上げることができました。

Kyoto International Startup Centerや、外国人起業家の交流基盤であるKIEC（Kyoto International Entrepreneurs Community）との連携を通じて、地域内外の関係構築も進展しています。一方で、言語の壁、経済的負担、滞在期間の適正化、支援人材不足など、多くの課題も明らかになっており、今後の制度設計や国・地域レベルでの構造的改善が急務であると認識しています。

また、これに関連して、JETRO（日本貿易振興機構）からの委託による外国人起業家向けイベントも実施しました。これは、2018年より地道に育ててきたKIECの意義が再評価された結果であり、起業家の声を地域経済界や政策領域へと橋渡しする、重要な役割を担っています。両事業とも来年度の継続が決定しており、多様なステークホルダーの皆様との協働のもと、外国人起業家が京都でさらに活躍しやすい環境づくりを目指してまいります。



成果報告会  
(note記事)



## GLOCAL FUNの集い

当センターは多岐にわたる事業を展開しておりますが、その活動の裏側にある私たちの価値観や想いを、より深く皆様にお伝えしたいと考えています。2024年度は交流会「GLOCAL FUNの集い」を全3回開催しました。第28回となる12月開催では、スタッフ一人ひとりからの担当事業紹介に加え、その日集まった参加者同士でチームを組んで「グローバルセンターを表すキーワード」を出し合い、当センターのキャッチコピーづくりに取り組みました。

「ミライを耕す人づくりの場」「ミライをつくる／育むたんぼぼ」といった、私たちの活動を表すキャッチコピー案が生まれました。普段表に出にくいバックオフィスの仕事や、事業コーディネートの裏方の仕事にもスポットライトが当たり、私たちからの一方的な発信ではなく、参加者の皆様と共にセンターの未来を考える、非常に意義深く、温かい時間となりました。ここで生まれたキャッチコピー案やキーワードは、今後のセンターの方針策定にも活かしてまいります。



FUNの集い28th  
キャッチコピー  
を考えるワーク  
ショップ  
(note記事)





# 持続的に活動していくために

日本では「ボランティア団体」というイメージが強いNPO法人（非営利組織）ですが、欧米では社会を支える重要なセクターとして、一般企業に並ぶ人気の就職先となっていることをご存じでしょうか？

日本においても、NPO法人は民間企業や行政だけでは解決が難しい社会課題に対し、明確なビジョンを掲げてその実現に向けて活動しています。しかし「良いことをするだけ」では、その活動を「持続性のある事業」として続けることは困難です。「非営利」という言葉が誤解を生みがちですが、活動を継続し、社会に貢献し続けるためには、組織として安定した財政基盤が必要です。主な収入源（下図）の中でも、皆さまからのご寄附と、活動から得られる事業収入は、私たちの活動を持続的に支える二つの重要な柱であり、これらの強化を目指しています。

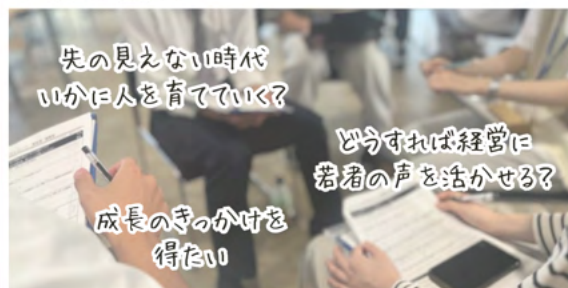
## 持続的な事業を目指すための、理想の収入割合は？



### ● 自主事業の強化を図ります

グローバル人材の育成につながる事業を行政や地域企業、助成団体等とともに展開しており、2024年度は行政委託と自主事業合わせて事業収入の約8割となりましたが、自主事業を5割程度にすることで持続性を高めたいと考えています。自主事業では地域の行政や企業、学校などから具体的なお困りごとの解消や人材育成の場づくりについてご相談・ご依頼をいただけますと、未来を考えるパートナーとして事業をコーディネートすることができますので、ぜひご相談ください。個人で参加できるイベントやプログラムも多数ありますので、まずはお気軽にご参加ください。

#### 事業の種類



#### 行政委託事業

政策の実現を通じた地域の人材育成や若者の声によるまちづくり 等

#### 自主事業

企業や学校として参加：お問合せ・ご相談をもとに企業研修や授業支援、講演等を実施、大学連携事業「GPM資格プログラム」への参画 等  
個人として参加：人材育成に関する研修プログラム、ワークショップ、交流会、イベント等への参加、学生のStudents Lab利用 等

#### 助成金・補助金事業

国や地方公共団体・民間団体等から助成を受けたプログラム運営 等

### ● ご寄附を通じた事業支援もご検討ください

当センターの活動は多様なサポーターからの支援によって成り立っています。持続的な活動のため、寄附収入（会費含む）の割合が、総収入の20%になることを目指しており、2024年度は約13%となりました。

皆さまからの温かいご支援を基盤に、若者が地域と世界で活躍できる真のグローバル人材として羽ばたく未来を創造していきたいと思っております。サポーターには、賛助会員（個人向け、法人向け）と、任意の金額で支援できる寄附者の形がありますので、会費・寄附金という形でも未来への投資を検討していただけますと幸いです。

#### 寄附金はこのような活動に活かされています



学生が社会とつながることができるイベント等の実施  
イベントやセミナーの会場費や参加費の補助として

#### 公益事業の不足分の補填、学びの平等性の確保

予算調整が難しい公立の学校等での授業支援等への補填、  
スタッフ・インターンシップ生に必要な専門性やスキル向上の研修費

#### 地方に教育機会を広げるための活動補助

プログラム等のオンライン実施や京都市外の府内地域や府外での活動  
費用の補填、遠方から参加する学生への交通費補助

助成期間を終えた事業を独自で継続していくための資金



# 寄附・賛助会費の御礼とご報告

いつもグローバルセンターの活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。  
この場を借りて心より御礼を申し上げますとともに、変わらぬご支援とお力添えのほど宜しくお願い申し上げます。

## ご寄附の状況について

法人設立以来いただいた寄附総額が 3,000万円を超えました

2024年度に皆様からいただいたご寄附・賛助会費は **141件 / 4,044,500円** となりました。  
昨年度に続き、ワンポイントサポーター(寄附)から、継続的なサポーター(賛助会員)になっていただいた方が増加し、当センター設立以来の寄附総数は1,000件、総額は3,000万を超えました。共感の輪が広がるとともに、応援して下さる方々との絆が深まってきていることを、とても嬉しく思います。

こうしたご支援により若者(特に高校生から大学生)が社会とつながる機会や学びの場を数多く提供することができました(P03~09)。また、事業の枠を超えた使途で活かせるご寄附があることで、より1人1人に寄り添った伴走ができ、若者のこれからの人生の選択肢や可能性を増やすことにつながっていると感じています。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



寄附者・連携先・学生などステークホルダーが集まる交流会「GLOCAL FUNの集い27th」

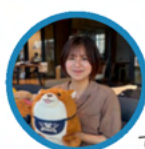
“認定NPO法人への寄附”は社会を動かす力になります！

グローバルセンター設立～2024年度

寄附総数 **1,063件** 寄附総額 **33,158,638円**

当センターは京都市より「認定NPO法人」として認定されています。  
認定NPO法人へのご寄附・賛助会員費は、個人・法人問わず税制優遇の対象になり、寄附金控除を受けることができます。  
社会のためにお金を生かしたい！という方には、税額控除の対象となるふるさと納税の他に、寄附という選択肢もあるということを知っていただけますと幸いです。

## VOICES (2025年7月時点)



同志社大学2年生 小倉 佳乃子

私にとってグローバルは、サードプレイスのような大切な居場所です。私は、大学での学びを通して、社会福祉における「居場所」や「役割」の大切さを日々実感しています。グローバルには、世代や立場を越えた人々が、それぞれの「モヤモヤ」を持ち寄って集まっています。その姿は、まさに地域福祉の実践のようであり、多様な価値観が自然に交わる貴重な場であると感じています。また、地域という枠だけでなく、私のように外から来た人にも開かれた温かい空間です。受容する姿勢を持った皆さんと対話を重ねることで、異なる背景や考え方を持つ他者を理解し、自分自身の視野を広げることができると共に、自分らしく発想を広げられる場です。

佛教大学2年生 安藤 凜



私にとってグローバルは、自分の好奇心に深く答えてくれる場所です。これまで知らなかったこと、気づきもしなかったことの数々が、ここでは「もっと知りたい!!!」という強い探求心へ変わっていきます。活動する中で多様な背景を持つ人々との出会いは、いつも私の中に新しい視点を置いてくれます。自分だけの引き出しが増えていくような感覚で毎回毎回が超楽しいです！グローバルがくれるのは、知識だけではなく、その先にある行動へと踏み出す勇気もあって、ここで得られる刺激と学びのすべてが、私の可能性を広げ、これからの人生を色々な色でカラフルにしてくれると思います。グローバルの皆さん、いつもありがとうございます！！



有限会社匠弘堂 ブランドマネージャー 富沢真由

以前『FUNの集い』というイベントで、「GLOCALは令和の寺子屋だ！」という意見がありましたが、まさにその通り。年齢・肩書関係なく、GLOCALで出逢う人々が互いに学び合う場所です。私も、スタッフのみなさんと意欲的な学生さんから、いつも多くの学びと刺激をいただいております。匠弘堂は宮大工集団です。建設業の中だけに留まっていたは、なかなか思うような社会貢献ができませんが、大学や地域企業、行政と繋がるハブであるGLOCALさんとご一緒させていただくことで、私達も若者が自分らしく幸せに生きられる社会の実現に貢献できればと思っています。いつもみなさまの活動を応援しています！

株式会社澤村 岩崎正幸



私にとってGLOCALは「自分を変えてくれた場所」であり「自分らしさを出せる場所」です。自分の立場、働き方、生き方。。。様々なことに思い悩んでいた時、たまたま参加メンバーとしてアサインされたGLOCAL SHIFT CAMP。そこから私の人生は大きくSHIFTしました。同じような悩みや課題、なんなら自分とは比べ物にならないようなプレッシャーにさらされながらも前向きに活動するメンバーたちに心を打たれ、かなりモチベートされたことを覚えています。あれから時は経ち、ついにグローバルさんと新しいチャレンジができそうなどころまでやってきました。また新しいSHIFTに出会えるチャンスに巡り合えて、大変光栄です。これからもよろしくお願いします。



# 2024年度会員・寄附者（法人）一覧（敬称略）

## 正会員（法人）

- 京都商工会議所
- 一般社団法人京都経営者協会
- 一般社団法人京都経済同友会
- 公益社団法人京都工業会
- 一般社団法人京都中小企業家同友会
- 京都信用金庫

## 賛助会員（法人）

- 株式会社アグティ
- 綾羽株式会社
- 株式会社Will Smart
- 株式会社大垣書店
- 小川珈琲株式会社
- 株式会社片岡製作所
- 株式会社京写
- 京都エレベータ株式会社
- 株式会社ケーデバイス
- 佐々木化学薬品株式会社
- 株式会社サン食品
- 一般財団法人三洋化成社会貢献財団
- 株式会社GSユアサ
- 株式会社ジーマックス
- 株式会社JTB 京都支店
- 株式会社島津製作所
- 株式会社松栄堂
- 菅原精機株式会社
- 株式会社SCREENホールディングス
- 第一工業製薬株式会社
- 大和電設工業株式会社
- 株式会社塚腰運送
- 東邦電気産業株式会社
- 株式会社特殊高所技術
- 株式会社ドコモgacco
- 豊田通商株式会社
- 長津工業株式会社
- 株式会社長津製作所
- 株式会社名高精工所
- 株式会社ナベル
- 奈良信用金庫
- 株式会社西浅

## 賛助会員（連携大学）

- 京都光華女子大学
- 京都産業大学
- 学校法人京都橘学園 京都橘大学
- 京都文教大学
- 学校法人佛教教育学園
- 学校法人龍谷大学
- 西村証券株式会社
- 日新電機株式会社
- 日東薬品工業株式会社
- 日本新薬株式会社
- 株式会社パックス・サワダ
- 税理士法人be
- 株式会社藤井合金製作所
- 株式会社フラットエージェンシー
- ポストン・コンサルティング・グループ合同会社
- 株式会社堀場製作所
- 村田機械株式会社
- 株式会社村田製作所
- 株式会社メディケア・リード・ジャパン
- 株式会社ローバー都市建築事務所
- 株式会社ワクワクプランニング

## ご寄附頂いた法人

- 生田産機工業株式会社
- 京都信用金庫
- 有限会社くらむぼん出版
- 有限会社匠弘堂
- スマートホールディングス株式会社
- 株式会社たおやかカンパニー
- 株式会社cheersity
- トヨタモビリティパーツ株式会社 滋賀支社
- 司法書士法人福村事務所

(2025年3月末時点)

## 特定非営利活動法人 グローバル人材開発センター

### ■ 事務局

〒602-8061

京都市上京区甲斐守町97 西陣産業創造会館 2F

☎ 075-411-5010

### ■ Students Lab Office (※ 学生生活拠点)

〒604-8006

京都市中京区下丸屋町390-2 QUESTION 5F

☎ 070-5262-7066

✉ [info@glocalcenter.jp](mailto:info@glocalcenter.jp)

🌐 <https://glocalcenter.jp/>